雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会
会議録（七ツ森小学校開催分）

平成25年11月7日

雫石町教育委員会

平成25年11月7日雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会を開催した。

場 所 七ツ森小学校1階ホール

時 間 19時00分～20時10分

1. 出席者

一般住民 26人

2. 事務局から説明のために出席した職員

雫石町教育委員会教育委員長 上 野 宏

雫石町教育委員会教育長 吉 川 健 次

雫石町教育委員会学校教育課長 高 橋 啓 二

雫石町教育委員会学校教育課主査 田 辺 茂

3. 書 記

雫石町教育委員会学校教育課主任 坂 井 一 博

4. 開会宣言

田辺主査 雫石町立小学校適正配置基本計画に係る説明会を始めさせていただきます。まず初めに教育委員長から。

委員長 夜分お忙しい中、また雨の中たくさん集まっていただき大変ありがとうございます。ご存知のとおり少子化の波が押し寄せ、全国同様、雫石町も急速な児童数の減少。平成 24 年度は、児童数 850 名。6 年後の平成 30 年は、690 人台に減少。それに伴い、町内 10 小学校で複式学級を抱えるのは半数以上の 6 校。複式学級は 2 学年の子供達と同じ教室で 1 学級を組んで活動。少人数なので先生の目がよく行き届き、和やかな雰囲気と和気あいあいと学習ができる反面、沢山の子供達と一緒に活動はできず、例えばドッジボールも学年ではできない。学習でも色々な考えを出し合い、考えを練り上げることはできない。また、1 時間の授業で先生の直接指導時間が少なくなる。その環境で子供達が学び合うとマイナス面も多々ある。21 世紀の今、子供達に必要な能力は色々な人達の意見を聞き、自分の考えを作り、発表する力。

そこで町内 10 校を見つめ直し、適正な小学校にと平成 24 年度 7 月から適正委員会を立ち上げ、色々検討していただいた。その結果、2 月に教育委員会へ提言書の提出を受け、教育委員会では 6 回ほど会議を実施。その結果が本日の基本計画。私共は、子供達の教育環境をよりよいものにするを第一に考えて検討して参りました。沢山の質問、前向きなご意見をいただき、この基本計画をよりよいものにしていきたい。

田辺主査 [事務局紹介]

学教課長 [以下、適正配置基本計画を資料に沿って朗読し、内容を説明]

田辺主査 皆様から質問ご意見等承ります。挙手、発言としていただければ。

参加者 これは、各学校一斉に始めるのか。理解のある地区ごとに順番にとはならないか。

学教課長 これは、地域住民の理解が一番大事。ただ、教育委員会としては子供の教育環境を考えれば一斉に始めたい。なかなか理解されない場合は、理解されたところから出来るだけ早く統合したいと考えている。統合の時期がずれる可能性はある。

参加者 学校別児童数を見ると七ツ森小は人数が減り、雫石小は人数が多く維持される。今の学区の境は七ツ森団地の向こうの野中団地から雫石小だが、もう少し黒沢行政区側に延ばし、子供達に七ツ森小に来てもらうとすると、スクールバスのようなものは準備できるか。

学教課長 学校が遠くなれば、通学距離が遠くなるのでスクールバスの運行は実施しなければならない。特に大村は、御所までの部分で 10km 以上の距離。もし安庭小とすると 2 路線ぐらい考えたい。鶯宿から矢用を通過して安庭小に行く便、大村から

外舩沢を通過して矢櫃を通る便と。効率的な運行を検討したい。もし七ツ森小が統合した場合も当然スクールバスの運行については考える。ただ、学区の変更はこちらでは考えていない。雫石小も人数が減少。例えば、野中団地の辺りの子供達を七ツ森学区へ編成とすると、その分雫石小も減る。その点を検討していない。

参加者 平成30年は1年生6人。次年に10人入るとすると統合の話はお休みか。

田辺主査 ちなみに、平成30年度の人数は9人に増えている。参考に31年度の入学の出生数は13人だが、流動的なので入学時でないと確定しない。この辺は、検討委員会で出たとおり、宅地造成で増加要因がある。その時にならないと確かな数字は出ないかと。

学教課長 特にも社会的に転出転入が、結構激しいところ。1年でかなり変動が出てくるかと。そういう部分も見つつ、時期になったら検討していく形になっていくと思う。

参加者 例えば、平成30年位の規模であれば統合の話は出てこないのか。

学教課長 ただ、90人を割っている。その時点で保護者や地域がどう考えるか汲み取った形で必要であれば検討。現状維持となればそのままに。まだ複式にはならないかと。

参加者 複式というものの具体的な人数を教えてください。

学教課長 2クラスで16人以下だと複式。ただし、1年生は2年生と合わせて8人以下であれば複式になる。2年生以上は、2クラス合わせて16人以下だと複式。平成30年の安庭小は1年生が8人、2年生が7人。1年生と2年生の合計で15人なので複式にはならず、全体で6クラスとなる。ただし、31年にそのまま移行すると2年生と3年生で複式になる。

参加者 他の対象地区ではどんな話をしているか。それは絶対だめだとか、学校がなくなればうちの行政区はだめだとか。どんな状態か。

学教課長 説明会は昨日から始まり、来週から対象地区に入るが、色々な意見が出てくるかと。学校は、地域の活力の拠点となっているところ。おそらくご年配の方々は、地域から学校がなくなることによりかなり抵抗があるかと。ただ、保護者の中には、小規模ではなくある程度の集団の中で学校生活を送らせたい、社会性を身につけたいという意見も多く聞かれる。色々な意見が出てくるのは分かるが、行ってみないとわからない。想定される部分として、学校がなくなるとその地域が廃れると考える方が多い。日中にその地域から子供が消える形になるので、ただそれをどうやって地域に戻すか。そういう部分はしっかり考えていかななくてはならないと考える。

教育長 町政懇談会も同じ様な形で進め、集まる方の年代は違うが、子供達のことを考えれば統合は進めた方がいいと。ただし、地域の拠点の学校がなくなるのは寂しいし、存続してほしい意見もあることは確か。統合しても地域の方を中心として集まれるような行事を作り、子供達との触れ合いや地域ごとの盛り上りを継続

してもらいたいと、私は考える。これからの話し合いでどう出てくるか。

参加者 各地域の話し合いの結果を私達はどう知ることができるか。広報は無理か。

学教課長 色々な意見が出てくると思うので、それらを集約して出来る、出来ない、の整理が必要。意見が色々出てきた部分は、広報等でお知らせすべきと考えている。

参加者 今回お知らせ版を見ていない方が多数いて、私はクラスに連絡網もお願いして、行政区長や民生委員にはお家に直接失礼して、昨日も電話でお願いした。やはり対象の行政区長、民生委員を初め関係者に案内が確実にわかる方法を取っていただくよう強くお願いしたい。

学教課長 大変申し訳ございませんでした。対象校には第一に保護者と考え、PTA 会長に通知は差し上げた。広報は、全体的にお知らせするものと捉えおり、各世帯に配布されるので、それが一番効果的と捉え、改めて各世帯へのチラシは作らなかった。ただ、広報の在り方も検討が必要。出来るだけ広報には目を通していただきたい。

参加者 セツ森小の近くにセツ森保育所がある。セツ森保育所に通っていた子供は大体セツ森小に入るものだと思っていたが、雫石小と統合かもと話が出ると、セツ森小学区に家があっても、雫石小に入れると。平成 30 年の 1 年生は 9 人。その 9 人から貴重な何世帯かが雫石小に入学となったら、微妙な人数のセツ森地区なので雫石小と統合もあり得ると思うので納得いかない。1 年生の人数を見て 8 人、9 人となったら、30 年度から急に動くということになっていくと思う。

教育長 1 学年だけ人数が少なくても、次の年が複式学級にならないぐらいの入学があれば、1 学年だけ少なくてもすぐに統合とはならないかと。住んでいる小学区外への通学は、特別な理由がなければ、認められないことになっている。今のお話にあったような、自分の考えであっち行ったりこっち行ったりとは出来ない形。

学教課長 雫石町では、学校選択制はとっていない。基本的には転居が必要。雫石小であれば、雫石小学区内に転居しなければ通学できないし、よほどの理由がない限り通学許可は出ない。それとセツ森保育所には町全体から来ているので、セツ森保育所でも、自分が住んでいる雫石小学区だったり、安庭小だったりそれぞれに通っている。セツ森小学区だけの保育所ではないので、その辺りをご理解いただければ。

参加者 平成 30 年に 69 人で担任外がつかないと、教務主任は誰がやるのか。

委員長 担任と兼業。担任をしながら教務主任をする。

参加者 雫石町内だけでなく、小岩井近辺の滝沢村に通う保護者を誘ったらどうか。今も電車通学が多く、雫石町内に家を建てている方もいると思う。誘ってみてもいいかと。

学教課長 小岩井駅周辺の子供達はセツ森小の方が、ずっと近い。ただ、区域外就学になるので余程の事案がない限り許可されない。声をかけたいぐらいだが、今度は地域との問題になるので非常に難しい。何らかの理由でセツ森小の方が近いので区

域外通学の申請があれば、許可していただくことはできる。それは本人の見解。こちらの呼びかけでは難しいので、教育委員会ではなく出来れば地域からの声掛けだと助かるが。

参加者 わかりました。

参加者 個人的には平成 30 年の 70 名で行事、学習発表会などを考えると、やはり 10 人前後は可哀想。今、色々意見が出たが、人数がいれば体育等何でもできる。多ければ多いほどいいと思うので、出来れば早めの統合が私はいいかと思う。

学教課長 そういった意見の方も多いかと思う。これから PTA の会合でもお話し合いをしていただき、どういった形がいいかを出していただければ。まとまった意見を教育委員会にお持ちいただいて、こちらでも対応を検討したい。特にスポーツ関係は、10 人規模の過小規模校であれば全学年一緒にできない。5、6 年生は、低学年に配慮し、自分の力がどのぐらいかが分からない状態が続くこともある。出来るだけ多くの集団生活で、自分の力も伸ばせると思うし、自分にどういう能力があるかも開けてくるかと。色々な考え方があるが、今回の適正配置は子供達にとってよりよい教育環境を第 1 に考えて策定。ご理解いただければ。

参加者 このような大規模な統廃合の計画で、町の財政はどのぐらい改善されるものか。

学教課長 財政的な部分は、全く前を出していない。というのは、財政的に捉えられると、本当の適正配置の検討ではなくなる。財政的にひっ迫しているから、町財政による合併と捉えられかねない。ただ、10 校から 5 校にすると半分にはならないがそれなりの経費が削減といったことは当然ある。ただし、跡地利用となるとまた経費がかかる部分はあって、単純に小学校の教育費だけが削減されるというだけであって、福祉関係の施設になるとするとその分の費用が出てくるかと思う。今は、全く試算をしていません。

5、閉会宣言

教育長 最後に一言。雨の中、夜遅く沢山お集まり頂き大変ありがとうございました。統合の該当地区ではないが、雫石町全体として考えていく必要があることでお集まりいただいた。今回の基本計画は、児童にとってよりよい教育環境とは何かを第一に考えて作成。どうかご理解いただき、今後ともご協力をお願いしまして挨拶とします。